

普及情報

乳牛の居住を考える（乳牛の快適性向上のために）

1 能力を発揮するために

乳牛の遺伝的な能力は、飛躍的に向上し、どこの農場でも1万kgを越える泌乳能力を有する乳牛は珍しくない（牛群としてはまだ少ないが）。

飼料給与の面でも、泌乳牛・乾乳牛を問わず、栄養に関する研究が進められた。多くの農場では、この新しい概念を導入し、より高い生産性を目指した経営努力が続けられている。

しかし、これらの高度で複雑な酪農の技術の中にあって、あまり進歩していないのが乳牛の快適性を確保するための対策である。乳牛にとってその牛舎や牛床が、本来持っている能力を十分に発揮するためにはストレスがかかりにくい構造でなければならない。

つまり、乳牛の体型も大型化し、遺伝的な能力や乳量が向上しているにも関わらず、牛舎や牛床構造は、20年前に建てられたものであれば、その当時のまま改善されずにいるケースが多く見られる。

2 牛体が示すシグナル

ストレス要因は、換気・暑熱や搾乳・栄養を含む



写真1 飛節の傷



写真2 頸部の角質化

管理技術、牛と管理者の関係など種々あると思われるが、繋ぎ牛舎の牛体でよく見かけるストレス事例を紹介する。

写真1及び2のように飛節や前膝の傷や首がません棒によって角質化しているものをみかける。これは、牛床サイズや形状・硬さ、繋留ロープやません棒との位置関係に何らかの問題があり、牛が横臥したり立ったりするときや採食行動に障害となっていることが考えられる。体重600kgの乳牛が苦痛を伴わずに、起立・横臥・採食・飲水行動を取れる環境に改善するよう管理者側のサポートの必要性をシグナルとして牛は訴えている。

3 改善事例

当普及センター管内では、クッション性の高いマットの導入、ません棒をはずしたニューヨークタイストールへの繋留方法の改善（写真3）や、飲水量の向上を図るためウォーターカップの水量不足を改善した連続水槽（ウォータースルー）を設置（写真4）し、効果を上げている。

芦田龍太郎（柏原普及センター）



写真3 マット施行と従来の牛床



写真4 ニューヨークタイストールと連続水槽の設置状況

ひょうごの農業技術 No.111

平成12年9月1日（隔月刊）

1部250円（申込先・県立中央農業技術センター）

兵庫県立中央農業技術センター（0790）47-1117

兵庫県立北部農業技術センター（0796）74-1230

兵庫県立淡路農業技術センター（0799）42-4880